

# 適性検査 II

\*\*\* 開始の合図があるまで、開いてはいけません \*\*\*

試験が始まるまで、下の〔注意事項〕を読んでおいてください。

〔注意事項〕

- ・ 問題用紙は表紙をふくめて4枚、解答用紙が1枚あります。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 適性検査IIの試験時間は、50分です。
- ・ 印刷の見えにくい場合のほかは、質問を受けません。
- ・ ホッチキスは、はずしてもかまいません。
- ・ 必要なものは、えんぴつ、消しゴムです。
- ・ 問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

1 尚子さんは、新聞で「校則みんなで変えた」という安田女子中学高等学校の記事を見て、校則やルールの見直しを通して、生徒みんなとともに学校づくりをしていくことについて興味を持ち、調べてみることにしました。資料1は、有志の生徒が中心となって行われた「ルールメイキングプロジェクト」の具体的な流れについてまとめたものです。資料2は、安田女子中学高等学校の生徒向けに行われたアンケートです。資料3は、世界の国々と比かくした今の日本の若者の意識などについて調べたアンケートです。

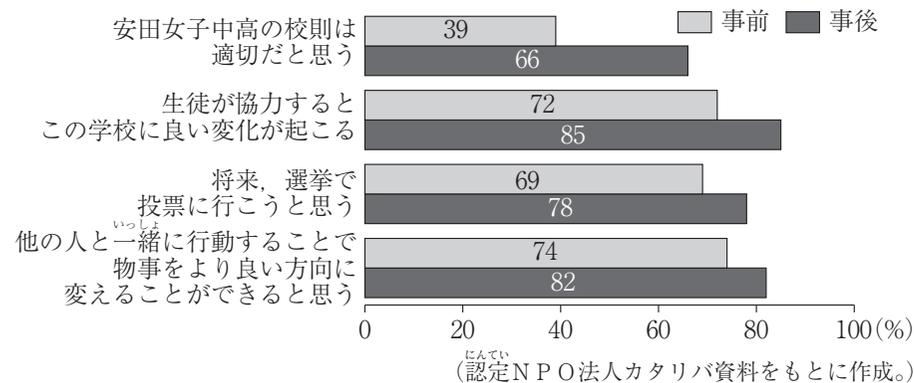
あなたが尚子さんなら、「生徒みんなで校則やルールを変える取り組み」には、どのような意義があると思いますか。資料1～3をもとに、あなたの考えを160字以上200字以内で答えなさい。

資料1 ルールメイキングプロジェクトの流れ

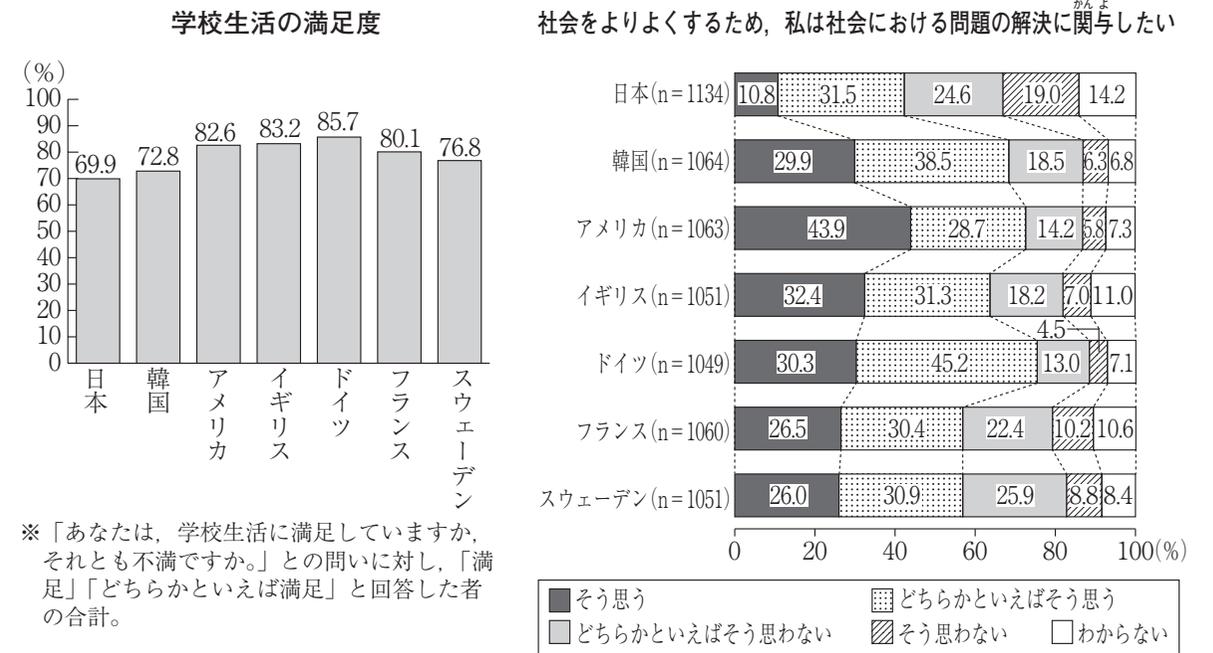
- ステップ1 学校のルールへの意見を広く集める
- ステップ2 見直したいルールを決める
- ステップ3 どのように進めていくか、調査計画を立てる
- ステップ4 生徒・保護者へアンケートを行う
- ステップ5 教員・関係者と話し合い、見直したいルールに対する意見を聞き取る
- ステップ6 ステップ4・5を受けて、新ルールを考える
- ステップ7 ステップ6で考えた新ルールを提案し、関係者と話し合い、みんなが納得した形を作る
- ステップ8 みんなが納得した新ルールを実際に使っていく
- ステップ9 新ルールについてふり返りを行い、必要に応じて見直していく

資料2 生徒に対する取り組み前後のアンケート

「とてもそう思う」「そう思う」と答えた人の割合



資料3 世界の国々と比かくした今の日本の若者の意識などについて調べたアンケート

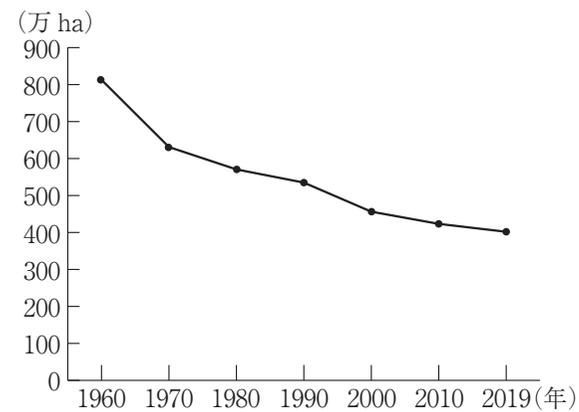


※ n はアンケートの母数を示している。  
(いずれも内閣府資料をもとに作成。)

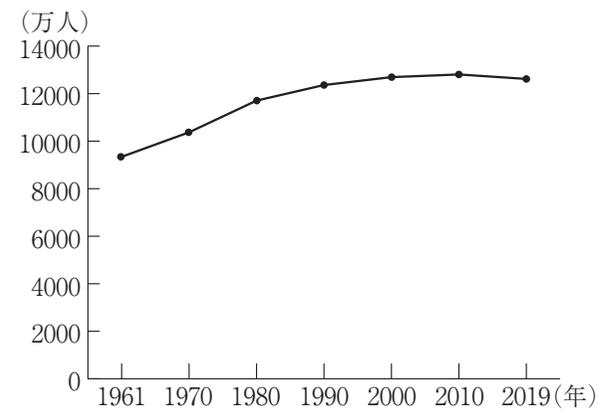
② 樹<sup>いつき</sup>さんは、スーパーマーケットで買い物をしていると、同じ野菜でも国産のものと外国産のものがあることに気が付き、それをきっかけに、社会の授業で学習した農業の内容を思い出しました。そこで、樹さんは、日本の耕地面積や人口の変化、各国の農産物の食料自給率の変化、農業就業人口<sup>しやうぎやう</sup>の変化と65才以上の農業就業人口の変化を調べ、日本の農業の課題についてまとめることにしました。次の資料1～4は、樹さんが作成した資料です。

あなたが樹さんなら、次の資料1～4を用い、どのようなことをまとめますか。日本の食料生産と農業就業人口の2つの観点から書きなさい。

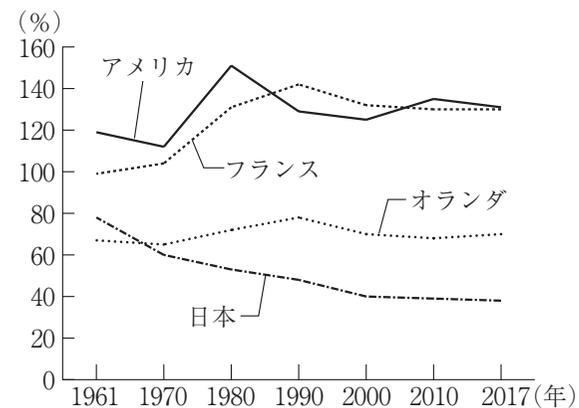
資料1 日本の耕地面積の変化



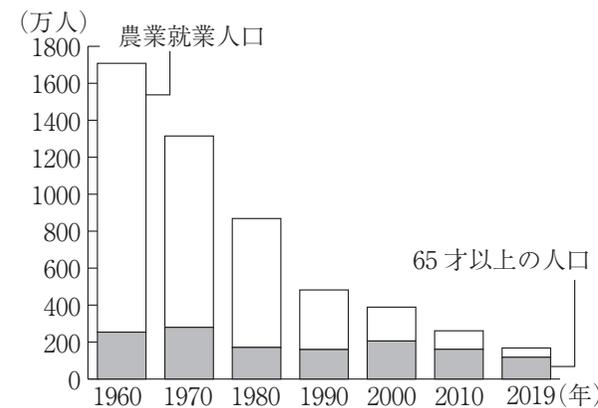
資料2 日本の人口の変化



資料3 各国の農産物の食料自給率の変化



資料4 農業就業人口の変化



(資料1～4は数字でみる日本の100年第7版などをもとに作成。)

次の文章は、齋藤孝さんが書いた「働く気持ちに火をつける ミッション、パッション、ハイテンション！」の一部です。これを読んで、あとの問一・二に答えなさい。

先日、あるスポーツ新聞でイチロー選手のインタビューを読んだ。彼は、子ども時代から野球に関しては自分の限界というものを感じたことがないそうである。勉強も優秀だったらしいが、勉強は一生懸命やってみても、あるときどうしてもトップになれなかった。これだけやっても勉強でトップになれないということは、それだけの器なんだらうと見極めた、という。

スポーツの世界は非常にシビアだ。ある年齢以上になれば、「プロを目指すんだ」というセリフさえ、おいそれと口走れない。しかし彼は、小学三年生のときから、球速一三〇キロのマシンでバッティングの猛特訓をしていた。中学校時代には名古屋球場で当時中日にいた鈴木孝政選手の投球を見て、①「これなら打てる」と思ったというエピソードもある。

それは、現時点ではある人と比べたら負けているかもしれないが、このまま経験を積んでいけば、自分の進歩が止まることはないという自信だ。自己暗示ではない。客観的な判断の上のことだ。彼は凄まじいトレーニングをしてきている。自分がやれることはすべてやっている。その思いが、一種、彼自身の才能の確信になっているのだ。

重要なのは、相対的にどれだけできるかより、自分はこれをやっている限りは疲れを感じない、苦労を苦労と思わないという気持ちがあることだ。

才能においては、いまの自分程度では十人並みだと感じても、その仕事をやっている限りはちよつとずつでも向上していく喜びがある。それが自分に向いている天職だ。

たとえ、やっているときはつらいと感じたとしても、はつきりと向上している実感があるとき、人は自分に自信が持てる。その仕事を自分のミッションとして引き受け続けることができる。

才能のかけらに振り回されるより、「これをやっているときの自分が楽しい」という気持ちを軸にすると、クリアに仕事と自分との関係が見えてくる。

反対に、小器用にやれはしても向上していく手応えを感じないときは、その仕事は向いていないのかもしれない。その場合は、自分はどこだったら燃え続けられるのかと考えて、少しずつシフトしていくようにする。

日々一歩一歩向上していく確かな手応えと客観的な評価のあるものこそ、②「一生取り組むに足る天職」である。

(注) シビア＝厳しいこと。 中日＝中日ドラゴンズ。日本のプロ野球球団の一つ。

相対的に＝ほかと比較してみても。 十人並み＝能力などが普通であること。

ミッション＝使命。任務。 シフト＝移行したり、移動したりすること。

問一 ①「これなら打てる」と思った ②とありますが、このときなぜイチロー選手は「これなら打てる」と思うことができたのですか。筆者の考えを書きなさい。

問二 ①「一生取り組むに足る天職」について、以下の問いに答えなさい。

(一) 「一生取り組むに足る天職」であるかどうかは、どのように判断することができると筆者は述べていますか。解答らんにかうように書きなさい。

(二) あなたは、「一生取り組むに足る天職」に出あうためにどのようなことを心がけたのですか。あなたの考えとその理由を、自分のこれまでの経験や、中学校生活でやってみたいことなどの具体例をあげながら、180字以上200字以内で書きなさい。

名 前

受 験 番 号				

3									
問二								問一	
(二)						(一)			
100									
200 字									
180									
200 字									
100									
200 字									

2				
200 字				

*
---

*
---

3									
問二								問一	
(二)						(一)			
100									
200 字									
180									
200 字									
100									
200 字									

*
---

*
---

で判断することが出来る。